

---

# 仮面ライダーキバ～IXA、FANTASY2

バッシャー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダー キバ／IXA、FANTASY2

### 【Zコード】

Z9490E

### 【作者名】

バッシャー

### 【あらすじ】

仮面ライダーイクサとファンガイアのとある戦い。オリジナルの物語。

(前書き)

前回の続き? ぽいものです。

前回同様、イクサとファンガイア以外の設定はオリジナルです。

2008年 七月上旬

日が強く、暑い日々が続っていた。

「なんで俺がこんな事・・・」

渚は呆れながら呟いた。

今回、渚が与えられた任務は「バイオリンコンテスト」の護衛。理由は不明だが何でもファンガイアが紛れているらしい・・・

「館内図は全て把握した。あとは出でてくるのを待つだけだな。」

すると、一人の少年がおろおろしているのを見つけた。

少年といつても背丈は高校生ぐらいはある。

「どうかしましたか?」

渚は近づいて話しかける。

「あつ、あの、コンテストに参加するんですけど・・・」

道を聞いてきたのはこれで一人目。手短に説明すると少年は「ありがとうございました」と言葉を残して去って行った。

コンテストが開催されて既に中盤、今の所は異常はなし。渚は安堵

の息を漏らした。

最後に一人が引き終わり、ついに表彰式。警戒を一層強くする。

「第22回バイオリンコンテスト、優勝は・・・」

司会がそう言いいかけた瞬間。パツ！と明かりが消えた。

暗闇の中から奇声と悲鳴が鳴り響いた。

（ファンガイア！）

明かりが再び点ると舞台の上に居た司会を含めて九人居たはずが、五人は倒れ、三人はおびえて動かず、司会の姿が無い代わりにファンガイアが舞台を躊躇していた。

「変身！」

渚は白い騎士・仮面ライダーイクサ、バーストモードに姿を変え、舞台の方へと駆け抜ける。

「はあつ！」

退魔聖剣・イクサカリバーを振る。だがファンガイア・ライノセラスファンガイアは微動だにしない。

「ウラアアツ！」

「何！」

ファンガイアから放たれた力強い拳。イクサは咄嗟に左腕でガードをしようとするが、体もろとも吹き飛ばされた。

「くつ！パワー違いますぐる。」

イクサカリバーをガンモードに切り替え、距離を離しつつ攻撃。

だが、カリバー モード同様、効いていない。

「ウオラアッ！」

雄叫びを上げてイクサ目掛けて突進する。この突進を受ければイクサの耐久性とはいえただでは済まない

「やるしか・・・ない！」

カリバー モードに切り替え、突進するファンガイアに対し、イクサは剣を水平に構える。

ガバッ！

急停止が出来ないファンガイアの腹部に向かつてイクサは剣を突き刺す。

両手に強い衝撃が襲い、イクサカリバーの刀身に鱗が入る。押されながらもすぐさまフェッスルをリードする。

『IXA、Caliber、rise、up』

電子音が鳴り響き、眩い光がイクサカリバーを包み、イクサは刺さ

つた剣を引き抜き、力強く上から振り下ろす。

「はあ・・はあ・・・・、ミッション・・・コンプリート。」

バリンッ！

ファンガイアがガラスの様に砕けていた。変身を解除すると、その場に座り込んだ。

「ふつ、渚がイクサか・・・。人選が甘いんじゃないかな。」

そう呟いて、青年が舞台の隅から姿を消した・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9490e/>

---

仮面ライダーキバ～IXA、FANTASY2

2010年11月20日02時58分発行